

令和8年度 第4回 朝日丘地域会議 会議録

■日 時 令和8年8月20日(木) 午後7時～8時40分

■場 所 朝日丘交流館 2階 21会議室

■出席者 <委 員> 山口 美智雄 高橋 英明 深井 弘司
長尾 敬一郎 野田 英伸 都築 正孝
岡本 勝好 藤田 武士 水野 和之
横山 浩一 日高 俊郎 川上 真史
中山 憲雄
<交流館> 田辺 由美(館長)
<事務局> 板倉 壮吾(地域交流課副主幹) 前田 浩貴(地域交流課担当長)
田中 和香(地域交流課主事)

- 次 第
- 1 開会・会長あいさつ
 - 2 地域課題解決事業について
 - (1) 令和8年度事業：朝日丘フェスタ(ブースでの出展)
防災ポスター案の確認
 - (2) 次年度以降取り組む事業(協議)
 - 3 逢妻地域会議との意見交換について
 - 4 閉会

■議 事(要約)

2 地域課題解決事業について

(1) 令和8年度実施予定の朝日丘フェスタ(ブースでの出展)、防災ポスターについて、事務局案を掲示した。委員からの意見は以下のとおり。

①交流館フェスタにおけるブース出展

<クイズラリー>

- ・回答方法を紙ではなく二次元コードの読み取りとしてはどうか。
- ・回答の集計や正誤の確認が楽になり、受付等の人員削減となる。
※説明する人・紙との併用となれば、通常通り受付も人が必要にはなる。
- ・高齢者や子どもの参加を考慮すると、紙と二次元コードの併用でやる必要がある。
- ・同時に備蓄に関するアンケートや来場者数の集計も実施でき、回答に関するフィードバックも可能。
- ・二次元コードでの実施の場合、個人情報等は集めない設定とする必要がある。

<景品>

- ・ポンチョ、給水バッグを参加賞として配布(自治区の防災訓練)
- ・その他、防災に関する景品として、被災して動けなくなった場合に使用できる笛や、非常食(アルファ米・パン・ようかん)も検討

<運営全般>

- ・提言の目標達成に向けたクイズを作成し、効果的なものにする必要がある。
- ・備蓄8割を目標とするのであれば、現状からどれだけ変わったことが分かるようにする必要がある。
⇒2年ごとに実施される市民意識調査結果を指標としているが、そもそも2年ごとで

よいのか。

- ・参加促進のため、目を引いてもらえるような看板や案内等を作成する。
- ・災害時の写真のパネル等、危機感を感じるようなパネルの設置をするのはどうか。
(モニターでの掲示や使用できるかどうかは要確認)

<まとめ>

- ・クイズラリーの回答方法は、電子と紙との併用で実施する。
- ・クイズの内容、数や景品等については、今後の会議で協議する。

②防災ポスター

- ・特に意見なし

(2) 次年度以降取り組む事業（協議）

- ・被災者や被災地で活動された方の講演や、豊田市における災害のシミュレーションの映像等も啓発には効果的である。
- ・朝日丘地域から提案をして、全市共通の防災動画を作成するのはどうか。
(⇒防災対策課へ要望する)
- ・イベントをやるのであれば、駐車場などの確保も考慮すべき。
- ・防災フェスタについては、ターゲットを定めて効果的な内容とする必要がある。
(子どもを対象として大人にも啓発をするのか、何を伝えたいのかを決めたうえで企画をする必要がある。)

<まとめ>

- ・事務局案（講演会・動画作成・防災フェスタ）は、次年度に実施する方針とする。
- ・各事業の詳細については、今後の会議で協議する。

3 逢妻地域会議との意見交換について

深井委員から、逢妻地域会議も同じ防災事業を進めているため、両地域会議の現状や課題意識等の共有を目的とし、意見交換会を実施したいと提案があった。

実施時期は11月の朝日丘交流館フェスタ後とし、意見交換をしたい内容等も含め、逢妻地域会議と調整を進めていくこととした。

(終了)